

勝海舟の年俵		
年代	年齢	事項
1823 (文政6)	1	江戸本所亀沢町で小吉・信子の長男として生まれる
1829 (文政12)	7	将軍家斉の孫初之丞の相手として江戸城奥向きに出仕
1831 (天保2)	9	奥向きを下り読書の師について通学を始める
1838 (天保9)	16	家督相続、小普請組、40俵、勝麟太郎物部義邦
1840 (天保11)	18	この頃剣術修業に専心
1842 (天保13)	20	オランダ語の独習を始める
1843 (天保14)	21	この頃剣術免許を受ける
1845 (弘化2)	23	永井青崖について蘭書を読み始める、9月結婚
1847 (弘化4)	25	日蘭辞書ゾーフハルマの筆写を開始、翌年8月完成
1850 (嘉永3)	28	赤坂田町に蘭学塾を開く、父小吉死去享年49歳
1853 (嘉永6)	31	論考『鱗行私言』を書く、ペリー来航、海防意見書を提出
1855 (安政2)	33	蘭書翻訳勤務、長崎海軍伝習所勤務、小十人組100俵
1856 (安政3)	34	論考『蚊鳴余言』を書き始める
1858 (安政5)	36	伝習軍艦咸臨丸で鹿児島訪問、島津斉彬に会う
1859 (安政6)	37	長崎伝習を終え帰府、軍艦操練所教授方頭取を命じられる
1860 (万延1)	38	咸臨丸で渡米、蕃所調所頭取助に任命、天守番頭格400俵
1862 (文久2)	40	軍艦操練所頭取、軍艦奉行並に任命、千石
1864 (元治1)	42	軍艦奉行に任命、諸大夫安房守、2千石
1866 (慶応2)	44	軍艦奉行再勤
1867 (慶応3)	45	大政奉還、王政復古
1868 (明治1)	46	海軍奉行並、陸軍総裁、軍事取扱、江戸城無血開城
1872 (明治5)	50	海軍大輔、従四位
1873 (明治6)	51	参議兼海軍卿に任命
1875 (明治8)	53	元老院議員に任命されるも辞職
1887 (明治20)	65	伯爵授位
1888 (明治21)	66	枢密院顧問官に親任、正三位
1892 (明治25)	70	長男小鹿死に、慶喜の子精を養子とする
1899 (明治32)	77	死去